

1 UTIによる女性下部尿路症状に対する 漢方治療

原三信病院
相島 真奈美

UTI(Urinary Tract Infection:尿路感染症)は上部尿路感染(腎盂腎炎)と下部尿路感染(膀胱、尿道、男性では前立腺)に分類される。今回膀胱炎や尿道炎による下部尿路症状に対する漢方治療について考える。

下部尿路感染の場合、粘膜の炎症による症状として頻尿、尿意切迫感、排尿時痛や残尿感が出現する。炎症が強くなると肉眼的血尿や排尿困難が出現することもある。急性期の炎症で細菌尿がある場合は抗生剤を用いるのは勿論であるが、漢方を併用すると症状のより早い回復がみられることが多い。また当初抗生剤のみで治療し尿所見が改善しているにもかかわらず不快感や疼痛が持続している場合にも漢方が良い適応となる。また、GSM(Genitourinary Syndrome of Menopause:閉経関連尿路性器症候群)の一症状としての繰り返す膀胱炎や、膿尿の再発などにも漢方薬が奏功し再発を防ぐことができたという報告もある。現在は医学部でも漢方医療が必修となり日常診療でも使用している医師は多く、泌尿器科漢方研究会でも毎年膀胱炎症状に対する方剤の報告がある。その中で、あまり証に関係なく最も頻用されているのが猪苓湯である。猪苓湯の構成生薬である猪苓、沢瀉、茯苓は水分代謝を促す利尿作用があり、滑石には清熱作用、阿膠には止血、補血、滋陰作用がある(猪苓湯は動物実験により膀胱微小循環の改善や尿路上皮下間質の浮腫軽減、尿路上皮剥離の改善効果が確認されている)。それにより血尿を伴う排尿痛や残尿感に適応があるが、より血尿が強くやや慢性期には補血薬の代表である四物湯が加わった猪苓湯合四物湯が適応となる。精神的疲労やストレスがあり体力がより低下して胃腸が虚弱な場合には清心蓮子飲を用いると良い。滋養強壮作用の人参・黄耆や、心の熱を冷まし気分を落ち着ける蓮肉が含まれており、地黄が含まれていないため先のような適応となっている。より炎症や症状が強い場合には五淋散や竜胆瀉肝湯を用いる。五淋散は11種類の消炎・鎮痛・解熱・利尿作用のある生薬が含まれ、芍薬、当帰、生甘草により猪苓湯より鎮痛効果が高い。体力が比較的あり冷えない場合は竜胆瀉肝湯を用いる。通常急性期に用いるため連用しないことが多いが、この二つは「山梔子」を含んでおり、5年以上の使用で腸間膜静脈硬化症を起こす可能性が報告されているため長期使用には注意が必要である。高齢者でより体力が低下し冷えや疲れがある場合は八味地黄丸や牛車腎気丸を使用する。牛車腎気丸は、八味地黄丸に止血や止痛効果のある牛膝と、利尿や消炎作用のある車前子を含んだ方剤で、頻尿、排尿困難に適応がある。上記の中で、八味地黄丸、牛車腎気丸、五淋散、竜胆瀉肝湯、猪苓湯合四物湯は「地黄」を含んでいるため胃部不快感や下痢など消化器症状には注意する。泌尿器科医として日常的に出会う尿路感染に伴う下部尿路症状に漢方製剤を用いることにより、症状のより早期の改善、細菌尿改善後の不快感の軽減、繰り返す尿路感染の再発防止など、患者のQOLの改善に寄与できると考えられる。